

Worshipping Love : The Mighty Aphrodite

愛と美の女神

Venus ヴィーナス

—ギリシア神話から現代へ—

2009年7月18日(土)–11月23日(月・祝) 4階ボストンギャラリー



《アフロディーテ頭部、通称「パルテノン頭部」》
ギリシア、前330年頃、大理石
Francis Bartlett Donation 03.743 Photograph
©2009 Museum of Fine Arts, Boston.
All rights reserved.

美よ永遠なれ

[開館時間] 平日:午前10時～午後7時
土・日・祝・休日:午前10時～午後5時(入館は閉館の30分前まで)
[休館日] 月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)
[入館料金] 一般:1,200円(1,000円)
シルバー・学生:900円(700円)
中学生以下:無料
()内は前売/団体および平日午後5時以降の割引入館料金、
シルバーは65歳以上

[主催] 名古屋ボストン美術館、ボストン美術館

[共催] 中日新聞社、日本経済新聞社

[後援] 米国大使館、在名古屋米国領事館名古屋アメリカン・センター、愛知県、名古屋市、愛知県教育委員会、
名古屋市教育委員会、名古屋商工会議所

[協力] 日本航空、近畿日本鉄道、東海旅客鉄道、名古屋鉄道、名古屋市交通局、ホテルグランコート名古屋

[協賛] 中京テレビ放送、東海東京証券

平日は午後7時まで開館

[交通案内] JR東海道・中央本線/地下鉄名城線/
名鉄名古屋本線「金山」駅下車南口前
[お問合せ] 〒460-0023 名古屋市中区金山町1-1-1
TEL 052-684-0101 FAX 052-684-0738
<http://www.nagoya-boston.or.jp/>

金山駅南口前

 名古屋ボストン美術館
NAGOYA/BOSTON MUSEUM OF FINE ARTS

愛と美の女神 ヴィーナス ~ギリシア神話から現代へ~

愛と美の女神ヴィーナスの名は、美女の代名詞として使われることもあるほど、日本でもよく知られています。

ヴィーナスはそもそもギリシア神話ではアフロディーテと呼ばれ、美しい女神として数々の場面に登場し、神々や人間たちの愛や情事を左右するとともに、自身恋多き女神でもありました。彼女は、愛や美を司る女神として古代ギリシア人、ローマ人から厚い信仰を受けていました。その一方、女神の姿は愛と美の象徴として、絵画に彫刻に、あるいは工芸品などに繰り返し取り上げられ、名作を生み出す原動力ともなりました。それはルネサンス以降も変わることなく、現代にまで続いています。この女神が司る愛も美も私たちの人生に欠かせないものであり、いつの世も私たちを魅惑し続けていることの証でしょう。

本展では、米国ボストン美術館が所蔵する古代から現代まで5000年にわたる作品135点によってヴィーナスにまつわる神話や信仰を紐解きながら、この女神の姿を辿り、彼女の素顔に迫ります。

ヴィーナスとは？

①名前

女神の名前として一般に知られている「ヴィーナス」はローマ神話中の名前、もともとのギリシア神話では「アフロディーテ」といいます。ギリシア人とローマ人は似たような宗教を持っていたため、ローマ人は内容の豊富なギリシア神話を自分たちの神々にも当てはめ、崇拝しました。



《マルスとヴィーナス》(部分)
ニコラ・ブッサン(フランス)、1630年頃、油彩、カンヴァス、
154.9×213.7cm
Francis Welch Fund 59.397

②誕生

アフロディーテ/ヴィーナスの誕生についてはいくつかの神話が伝えられており、主なものに、海の泡から生まれたという説があります。これに基づいて古代やルネサンスから近現代の芸術家たちは、生まれたばかりの女神が海を渡って岸辺に向かう姿を繰り返し表しています。



《アフロディーテの誕生》
前1世紀~後1世紀、大理石、高さ43cm
Frank B. Bemis Fund 1986.20

③キュービッド

キュービッドといえは愛の伝令。ギリシア神話での名前はエロスです。エロスとはギリシア語で「愛」そのもの。彼はヴィーナスの使者として、翼をはばたかせて飛び回ります。彼の素性には混沌から生まれたという説と、ヴィーナスの息子という説があります。



《クビッドの翼を切るヴィーナス》
ジャン＝バプティスト＝カミーユ＝コロール(フランス)
1870-73年頃、油彩、カンヴァス、70.5×54cm
Gift in memory of the late Harry Payne Bingham 1987.745

展覧会概要 本展では次の五つの観点からヴィーナスを解き明かします。

◆ 1. ヴィーナスの起源: オリエン트의女神たち

ヴィーナスはそもそもギリシア神話のアフロディーテですが、この女神の起源は、さらにさかのぼって紀元前3000年頃のメソポタミアにまで遡ることができます。この地方では、アフロディーテと似た女神が崇拝されており、それが変化しながらギリシアへ伝わってアフロディーテになりました。そしてそれがローマに入ってヴィーナスとなったのです。ヴィーナスの祖先にあたる女神や、それがギリシアへ伝わった経緯を紹介します。



左《女性像》

テル・ジュディア(シリア)出土、紀元前3100年頃、ブロンズ
Gift of the Marriner Memorial Syrian Expedition 49.119



右《首飾り用鍾》

セムナ(スーダン)出土、前1390-1352年頃、ブロンズ
Harvard University-Boston Museum of Fine Arts Expedition 29.1199



上《アンフォラ》「ヴェルツブルグの画家」に比定、アテネ(ギリシア)、前510-500年頃、高さ44cm、
Seth Kettel Sweetser Fund 60.790

◆ 2. ヴィーナスと神話

海の泡からの誕生や、トロイの王子パリスによる美人コンテストでの勝利、夫ヘファイストスと愛人アレスとの三角関係や悲恋など、女神にまつわる神話は数多く伝えられています。古代ギリシア、ローマ時代の作品をはじめ、近現代の絵画や版画、工芸品などを手がかりに、彼女をめぐる数々のエピソードを辿ります。



《マルスとヴィーナス》ニコラ・ブッサン、フランス、1630年頃、154.9×213.7cm
Augustus Hemenway Fund and Arthur William Wheelwright Fund 40.89

◆ 3. ヴィーナスと美

ヴィーナスは美の象徴であり、人々は理想の女性美を求め、この女神の姿を美術作品として表現してきました。つまり彼女の姿は、時代の美の最前線であったといえます。また、美を追求する女性たちにとってヴィーナスは憧れの存在であり、宝飾品や化粧品用具などのモチーフとしても登場しています。ここでは、古代から現代までの美の理想と、美を求める女性たちの思いを振り返ります。



左《アフロディーテ像(カイトリーノ・タイプ)のトルソ》
ラツィオ(イタリア)、2世紀、大理石、高さ、112.4cm Henry Lillie Pierce Fund 99.350
中《庭でバラを集めるクビドのモザイク》
ローマ帝政期、2-3世紀、石灰岩、ガラス、48.5×61.1cm Museum Purchase with funds donated by Jeffrey and Pamela Dippel Choney 2003.340
右《エロスをかたどったイヤリング》
ギリシア、前3世紀、金、長さ5.2cm、Anonymous Gift 90.177, 90.178

◆ 4. 愛と結婚

ヴィーナスは、自ら恋多き女神であっただけでなく、神々や人間の愛を取り持ち、結婚の守護神として活躍しています。それゆえ、結婚式で用いる壺などには彼女に関連した図柄がよく描かれました。作品の数々には、愛の成就や幸せな結婚を願って彼女の庇護を求めた人々の思いが込められています。



右《スキュフォス(杯)》
ヒエロン(陶工)、マクロン(画工)、ギリシア、前490年頃、赤像式陶器、高さ21.5cm
Francis Bartlett Donation of 1912 13.186

◆ 5. ヴィーナスと信仰

愛と美を司る女神は、具体的にどのような信仰を受けていたのでしょうか?彼女に対する崇拝は、古代ギリシア、ローマ世界の各地に認められ、彼女への奉納品など多くの遺品が出土しています。とりわけローマ帝国では、国の伝説上の始祖アエneasの母として、盛んな崇拝を受けました。ここでは、信仰対象としての側面を掘り下げます。



上《柱にもたれかかるアフロディーテ》
ギリシア、ヘレニズム時代初期、テラコッタ、高さ23.1cm
Museum purchase with funds donated by contribution 01.7956



右《アエneasに武具を授けるヴィーナス》
ルーカ・ジョルダノ(イタリア)、1680-82年、油彩、カンヴァス、227.3×199.4cm、
Charles Potter Kling Fund and Henry H. and Zoe Oliver Sherman Fund 1984.409

見どころ

- ① 貴重な古代ギリシア時代の原作「バートレットの頭部」が初来日します。
- ② 紀元前3000年から現代まで、5000年のヴィーナスが一堂に会します。
- ③ 彫刻、絵画、版画、陶器、宝飾品などさまざまな美術に表されたヴィーナスを見ることができます。
- ④ 神話、宗教的な起源、美、愛、信仰という五つの観点から、ヴィーナスを徹底的に解き明かします。

二千三百年の時を超えて、オリジナルの微笑みが来日!



《アフロディーテ頭部、通称「バートレットの頭部」》

白い大理石の頬に柔らかな微笑みを湛えたこのアフロディーテの頭部(左、及び表紙)は、ボストン美術館が誇る至宝です。古代ギリシアのクラシック時代末期からヘレニズム時代初期(紀元前330年頃)にかけて制作された作品で、当時ギリシア世界に名を轟かせていた彫刻家ブラクシテレス作のアフロディーテ像(原作は現存せず)にひじょうに近い特徴をもつといわれています。実は現代にまで伝わっている古代ギリシアの彫刻は、ほとんどがローマ時代に作られたコピーです。しかしこの頭部像は、ルーブル美術館の「ミロのヴィーナス」よりも古いギリシアの貴重な原作で、アフロディーテ像の顔としては最も美しいと評されるほどです。